

人材育成研究グループミーティング記録

日時：平成17年4月12日（火）13:00～14:00

場所：立教大学5号館第2会議室

出席者：坂口（東洋）、竹田（中央学院）、小倉（武蔵）、池田（東京音楽）、宮岡（中央）、越後谷（国土館）

. 今般人事異動により、大東文化大学の長田さんが他部局に異動になり退会されることになった。

. 今回は、東京音大池田さん起案の配布資料：「作成する研修プログラム（案）2005.4/12」により意見交換が行われた。

プログラム：初任者研修・基本研修

プログラム：図書館専門技術研修

- （例）
1. Reference Librarianコース
 2. Digital Librarianコース
 3. Bibliographer, Catalogerコース
 4. Serials Librarian コース

プログラム：応用（再教育）研修

プログラム：管理職研修

Management Librarian

次のような意見交換があった。

- a. 専門職研修は外部団体の研修に期待したいが、例えばNII研修を受けるためには、一定レベルの要件が求められる。
専門職としての研修は、学内者が実施するよりもNII、日本図書館協会、私立大学図書館協会等が実施するプログラムを最大限に有効活用することがもっとも効果的と考える。
次回までに各自で外部団体のプログラムをリサーチしてみる。
- b. 初級者のためのデジタルライブラリアン育成研修のようなものが必要ではないか？
現存する研修会のなかでは、慶應大学の原田隆史氏等が中心となって行っている「デジタルライブラリアン養成講座」が内容的に一番近いのではないか？
- c. 理工系出身者をデジタルライブラリアン要員として採用している。
必要ないと思いますが・・・
- d. スキルアップのため段階を踏んで習熟する。
- e. 初任者の疑問点にどう答えるか。
- f. 専門職研修に入ったのち、ある段階になったら、Subject Librarianとしてレベルアップを目指すのか、Management Librarianを目指すのか、あるいは今は図書館に所属しているが総合職として大学職員を望むのかによって、コースが分かれるのではないか？

自己を「ライブラリアン」と限定する前に、「大学職員」であることを意識しての「図書館スタッフ」であることを踏まえて、図書館に関するベーシックな知識は必要である、ということ。

図書館という職場は、図書館業務に就いてからある一定時期に達した段階で、その人の進むべき方向性の特定が必要になってくるのではないか？

- a 図書館の専門性を必要とする業務（図書館コア業務）
資料組織、レファレンス、DB利用 e.t.c

Subject Librarian

【「Reference Librarian」 「Digital Librarian」】

- b 図書館の専門性をある程度もちつつ大学側との交渉等を担う業務
予算折衝、人事交渉、施設設計・メンテ e.t.c
Management Librarian

他部局経験の有無に関わらず、図書館基礎知識修得を前提として図書館経験のある一定年限（年限を具体化するかは要検討。）を経過した段階で、上記a、bの方向性が出てくるのではなかろうか？
本人の選択か、人事施策かは別問題。

意見交換の結果、どのようなコースを歩むのであっても、 初任者研修が必要なのは間違いないので、まず「初任者研修プログラム」（項目・プログラム内容）を作成してみることにした。

書記：越後谷

参考：(Reference Librarian

情報の科学と技術 1999年4月号抄録 <http://www.infosta.or.jp/journal/9904j.html>)

参考：(Digital Librarian

<http://www2d.biglobe.ne.jp/~st886ngw/possibility.htm>)